

パーソナルファイナンス学会  
2025 年度会員総会 議事録

日時：2025 年 10 月 11 日（土） 11：35～11：55

会場：早稲田大学国際会議場第 2 会議室

出席者数：18 名 + 委任状：12 通 = 30 名

定足数（会員数の 1/10）：12 名

坂野会長より、WEB での委任状 12 通と会場の入室者とあわせて定足数を満たしていることが確認された（今年よりはがきの委任状を中止した）。

**報告事項**

1. 各委員会・部会活動

坂野会長より、資料に基づき各委員会の活動報告がなされた。学会誌編集委員会では、前年度発行のジャーナルを 6 月に J-Stage で公開したこと、大会委員会では本日開催の内容について、部会報告では西部部会と東部部会の開催予定について等、報告がなされた。

2. 2024 年度（第 25 期）監査報告

坂野会長より、まず資料に貸借対照表と収支計算書が掲載されていることが説明され、大塚監事より、証憑類の確認のうえ、記載のとおり会計が正確に処理されているとの報告がなされた。

坂野会長より、収支計算書の収入にある学会運営補助金は早稲田大学からの補助金であるが、ご自身の退職によりこの記載分が最後となることが補足された。

3. 2025 年度予算・中間決算

坂野会長より、資料に基づき今年度予算執行状況が説明された。

4. 2025-2027 年度委員会構成

坂野会長より、昨年度末に実施した改選結果にもとづき、今年度からの委員会構成について資料の通り説明がなされた。

5. 名誉会員紹介

坂野会長より、今年度より名誉会員となられた桑名義晴先生のご経歴が紹介され、記念品が贈呈された。続いて、桑名先生から次のようなご挨拶が述べられた。

この学会を作られた一人で、昨年ご逝去された江夏健一先生をサポートする形で、当学会の設立当初から理事をやらせていただいた。2013-2017 年度には思いがけず会長となり、期

中には15周年記念の書籍を作ったことが思い出であると述べられた。

また、組織が発展するにはイノベーションが大事であり、会長在任中はこの学会もイノベートして、より社会に応えるような学会にしたいと考えていたが、必ずしも力不足でなれなかったことが心残りであると回顧された。個人の研究としては、国際ビジネスを研究しており、消費者金融会社の海外進出およびマネジメントについての研究に着手し、消費者金融会社の皆さんにも協力を得ながら、本社、香港、タイ、中国と何度かインタビューに行ったことが挙げられた。さらにその成果をこの学会のジャーナルで公開したことで、他の論文に引用されたり、新聞社のインタビューに応じるなど、それなりの役割を果たしたとの感想が述べられた。

現在の社会は非常に大きな変化をしており、その要因はデジタル革命とグローバル化から非グローバル化へ、一方において分断があると同時にそこから格差の問題などが生じており、金融面にも大きなインパクトを与えているとの見解が示された。

デジタル革命によるAIの発展により、社会にはフェイク現象もみられるようになったが、学会活動は、真実を探求するという役割があり、ますますその役割は重要であると述べられた。研究するテーマも幅広く、研究分野も多くなったが、各々の研究とともに学会への発展に貢献されたい、との期待とあわせて名誉会員への推挙に対し感謝が述べられ、挨拶とされた。

## 審議事項

### 1. 2026年度第26回全国大会について

坂野会長より、2026年度に全国大会を開催していただける大学を募集することが提案され、了承された。可能であれば、関西方面で実施したいが、例えば京都で開催するにはこの秋の時期の開催は難しいので、2月から3月といった時期になることが補足された。

2027年度においては、大会委員長の前田理事の勤務校である九州大学で開催することが決まっていることが報告された。

### 2. 入会・退会について

坂野会長より、資料に基づき6名の入会と3名の退会について報告がなされ、会員数がプラス3名となり、118名になったことが確認された。

最後に午後のプログラムが紹介されたあと、ご参集のお礼が述べられ閉会となった。

(文責 リエゾンオフィス)